

熊本市立幼稚園まなび創造プログラム（素案）【概要版】

第1章 プログラム策定の趣旨

01 策定の趣旨

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期です。熊本市立幼稚園が、幼児教育の拠点としての役割を担い、本市の未来を担う全ての子どもたちが健やかに育つことができる環境を整備し、より質の高い幼児教育を提供していくために本プログラムを策定します

02 プログラムの期間

令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの5年間です

03 プログラムの対象

本計画における幼児教育は、3歳から5歳までの熊本市立幼稚園で行う教育を基本とし、本市の幼児教育施設や家庭、地域社会等と連携して行われる教育のことをいいます

04 プログラムの位置づけ

「熊本市教育振興基本計画【熊本市教育大綱】」のうち、幼児教育及び市立幼稚園の役割を具体的に示すものです

第2章 市立幼稚園の現状と課題

01 熊本市の現状

- ・本市における幼児人口は減少傾向であり、今後の少子化の進行が予想される状況
- ・比較的長時間の保育・教育を行う保育所や認定こども園を選択する保護者が増加
- ・特別な配慮を必要とする幼児の増加

02 市立幼稚園の現状と課題

- ・園児数は減少傾向
- ・特別な配慮を必要とする園児及び特別支援教育ニーズの増加
- ・施設の老朽化

第3章 基本方針

01 市立幼稚園に求められる役割

公立の教育機関として、自ら質の高い幼児教育を実践するとともに、幼稚園と小学校の設置者が同じという特性を生かして幼小連携の取組の中心的役割を担い、民間では対応が難しい特別な配慮を必要とする幼児への支援の充実を図り、本市の幼児教育の質の向上に寄与する。

02 基本目標

遊びを通して創造的な思考や主体的に行動する力を育む教育の推進

03 めざす子どもの姿

- 安心して自分を発揮する子ども
- みんなと楽しみながら関わり、好奇心をもつ子ども
- 思いをふくらませ、夢中になって遊ぶ子ども

04 成果指標

指標	現状値 令和3年度	目標値 令和8年度
幼稚園は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていると思うと回答した保護者の割合	【参考】R2年度 98.4%（※1）	100.0%
お子さんは、自分の思いを表現し、意欲的に活動していると思うと回答した保護者の割合	【参考】R2年度 95.5%（※2）	100.0%

※1 内訳：そう思う79.4%、どちらかといえばそう思う19.0%

※2 内訳：そう思う66.0%、どちらかといえばそう思う29.5%

第4章 プログラム推進に向けた施策

熊本市立幼稚園まなび創造プログラム（令和4～8年度）

基本理念	豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む
基本目標	遊びを通して創造的な思考や主体的に行動する力を育む教育の推進
めざす 子どもの姿	安心して自分を発揮する子ども みんなと楽しみながら関わり、好奇心をもつ子ども 思いをふくらませ、夢中になって遊ぶ子ども

施策		具体的取組	
(1)	魅力ある 幼児教育の実践	① 「標準指導計画」の作成	新規
		② 遊びを通しての総合的な指導の充実	拡充
		③ 職員体制の充実	拡充
		④ 学級定員の見直し	新規
		⑤ 担任補助員の配置	新規
		⑥ 保育力向上支援員（ステップアップ・サポーター）の派遣	継続
		⑦ 職員研修の充実	拡充
(2)	特別支援教育の充実	① ことばの教室の拡充	拡充
		② あゆみの教室の拡充	拡充
		③ 学級支援員の適正配置	継続
		④ 教育・福祉連携コーディネーターの派遣	新規
		⑤ 「移行支援シート」「就学支援シート」の活用促進	継続
		⑥ 特別支援教育の専門性の向上	継続
		⑦ 児童発達支援事業所等との連携	新規
(3)	幼小連携の推進	① 幼小連携カリキュラムの充実と活用促進	拡充
		② 幼小連携支援員の配置	新規
		③ 幼小中連携の充実	継続
		④ 幼稚園教諭と小学校教諭の人事交流	継続
		⑤ 豊かな体験につながる幼稚園施設の一体整備	新規
(4)	家庭教育支援等の充実	① 幼児教育相談の充実	拡充
		② スクールソーシャルワーカー等の派遣	新規
		③ 保護者への子育てや子どもの発達に関する情報提供	拡充
		④ 預かり保育・給食の継続実施	継続